



神辺中だより

最終号

令和8年3月
神辺中学校長

第60回卒業証書授与式

3月6日(金)、第60回卒業証書授与式を挙りました。教育後援会会長小林様をはじめとして、各学区連合会会長様、各学区交流館長様等のご臨席を賜り、滞りなく卒業証書授与式を終えることができました。

在校生代表の赤木さんが卒業生との思い出を振り返りエールを送った後、卒業生代表の加納さんが、中学校生活を振り返るとともに、新たな世界へ向けて旅立ちの言葉を述べました。

退場の際には、クラスごとに、担任の先生へ感謝の気持ちを涙ながらに伝え、3年生の先生方も感無量の様子でした。

また、最後にグラウンドに集合した卒業生たちが、ここまで育ててくださった保護者に、感謝の気持ちを込めてGReeeeNの「キセキ」を大合唱しました。



卒業生たちの思い出や希望を乗せた風船が空高く舞い上がる中、中学校生活のすべてが終わりました。

今後の活躍を心より祈っています。

【卒業生 答辞】

厳しい寒さがやわらぎ、春の訪れを感じる今日、私たちは卒業の日を迎えました。この良き日に卒業式を挙行していただけますことを、卒業生一同、心より嬉しく思います。思い起こせば、この神辺中学校で私たちの過ごした三年間は、短いようで長く、たくさんの思い出であふれた日々でした。

一年生の春、不安と期待を抱えながら、私たちの中学校生活が始まりました。小学校との違いに戸惑うこともありましたが、そんな私たちを支えてくれたのが、先輩方の大きな背中でした。その姿に何度も励まされ、いつかあんな先輩になりたい、と強く憧れるようになりました。また、休み時間に声を掛け合ったり、授業ではわからないところを教えあったり、部活動に励んだりするなど、少しずつ仲間との絆も深めていきました。

二年生の夏には、職場体験を通して、働くことの大変さや、誰かの役に立つことの喜びを学びました。お客様や事業所の方から「ありがとう」と言ってくれたときの嬉しさは、今も心に残っています。

そして、最も忘れられないのは、修学旅行です。東京へ向かう途中、新幹線の車窓から富士山が見えたときは、車内が大きな歓声に包まれました。東京スカイツリーからの景色に感動したり、仲間と協力して班別自主研修に取り組んだり、充実した時間を過ごしました。おいしいご飯を味わい、夜遅くまで友達と話に花を咲かせるなど、忘れられない思い出がたくさんできました。

三年生の秋が深まる頃、私たちにとって中学校生活最後の体育大会がありました。これまで先輩方の背中を追いかけてきた私たちが、今度は一・二年生を引っ張る立場になりました。ダンスの選曲や振り付け、全体の構成を何度も話し合い、

意見を出し合いながら試行錯誤し、練習を重ねました。本番で全員が心一つにして競技や団演技をやり切ったあの達成感、三年間の集大成でした。

振り返れば、何気ない日常も、仲間と笑いあった時間も、悩みながら乗り越えた出来事も、すべてが私たちを成長させてくれました。

在校生の皆さん。私たちから皆さんに伝えたいことが、二つあります。一つは、友達を大切にすること、もう一つは、ルールを守って生活することです。楽しむときは楽しみ、やるべきときは、しっかりとやる。節度を守り、自分の行動に責任を持つこと。仲間と過ごす日々を大切にしながら、これからの中学校生活を楽しく充実したものにしてください。

保護者の皆さま。今まで私たちを支え続けてくださり、本当にありがとうございました。毎日おいしいご飯を作ってくれたこと、部活動の送迎をしてくれたこと、体調が悪い時にそばで支えてくれたこと、進路に悩む中で真剣に話を聞いてくれたこと。その一つ一つが今の私たちの力になっています。普段なかなか言葉にすることはできないけれど、心から感謝しています。これからもたくさん迷惑をかけるかもしれませんが、どうか温かく見守ってください。

先生方。普段の授業や部活動でのご指導、本当にありがとうございました。これから私たちが社会で生きていくうえで大切な力を、先生方は三年間かけて教えてくださいました。温かい励ましや、時に厳しいご指導により、私たちは大きく成長できました。また、地域の皆さまにも、日々の温かい挨拶や見守りに、心より感謝申し上げます。

これから私たちは、それぞれの進路へと歩みを進めていきます。不安もありますが、この神辺中学校で学んだことを胸に、自ら未来を切り拓いていきます。

そしていつの日か、支えてくださった皆さまに胸を張って報告できる、カッコいい大人になります。以上をもちまして、卒業生代表の答辞といたします。

卒業生代表 加納 慶大



一年間の終わりにあたり

日本語には美しい表現がたくさんありますが、「残り姿」という言葉があります。

「残り姿」というのは、「終わったあとの姿」「その場からいなくなったあとの姿」を感じることを言います。

3月の卒業式や修了式が終わった後の学校の中には深く大きい「残り姿」がたくさんあります。掲示物が外され、荷物もなくなり、掃除が行き届いた教室。スッキリとした、誰もいない、机と椅子だけになった空間にさまざまな「残り姿」を感じることができます。少なくとも一年間、共に学び、生活した「深くて、大きい残り姿」です。この一年間に起こったさまざまな出来事。あの時の「笑顔」、あの時の「涙」。新しい生徒を待つ「何もない教室」ですが、そこには「残り姿」があります。

一年間の締めくくりの日、それぞれの教室にはどのような「残り姿」があるのでしょうか。

4月9日には新入生を迎えます。どのような伝統を共に作っていくのか、今からとても楽しみにしています。

一年間、保護者の皆様には、本校教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。